

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 33 学校名 武義高等学校

学校教育目標 (教育方針)	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより、高い志をもち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・ 自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・ 地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・ 一人一人の個性や能力の伸長と自走性の育成 ・ ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で目標を定め、自走性を発揮し、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・ 自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ ふるさとを愛し、地域の様々な課題解決に積極的に参画する生徒
学校の抱える課題	自ら考え行動できる自信と勇気を持った自走性に富んだ生徒たちに育てていく体制づくり。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	地域教育力で育つ生徒の自走性養成をスローガンに、多様な進学方法と進路選択ができる学校をつくる。
	学習指導	主体的な学習態度を育成する、質の高い授業、頑張れる授業、わかる授業を提供する。
	進路指導	生徒理解に努め、生徒の健全な発達を図るとともに、進路希望の実現を達成する。
	特別活動	地域社会に貢献する教育を推進し、地域教育力を生かした活動の充実を図る。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	生徒一人一人が活躍する場面を創出し、お互いの良さを認め合う機会を多く持つ。	1	施策Ⅰ-1 ・学校評価
	地域と学校が連携・協働し、地域の教育力を取り入れる。	7	施策Ⅰ-7 ・外部評価（アンケート、学校運営協議会等） ・ホームページの更新回数、アクセス回数
	情報発信を通して、地域の理解を求めると共に、武義高に対する地域の要望に応じていく。	20	施策Ⅳ-20
	特色・魅力ある学校であり続けるための教育課程を開発する。	20	施策Ⅳ-20 ・教育課程の完成
学習指導	高校生のための学びの基礎診断等から学習効果・課題を定期的に分析し、指導方法や評価方法の改善をする。	8	施策Ⅱ-8 ・授業アンケート結果
	ICT教育を取り入れた授業改善を推進し、主体的・対話的な学習態度を育成する。	9	施策Ⅱ-9 ・外部模擬試験等の成績結果と経年比較
	地域の産業界や関係機関と連携したキャリア教育を促進する。	13	施策Ⅱ-13
進路指導	週1回の定期的な生徒情報交換会を開催し、常に生徒の状況を迅速に把握し適切な対応を取る。	3	施策Ⅰ-3 ・不登校や問題を抱えた生徒の状況把握と対応、心のアンケート等
	国際社会やグローバル社会で活躍する意識を持たせ、努力を継続させる。	11	施策Ⅱ-11 ・企画実施後の生徒アンケート、外部評価
	進路選択の多様化に対応した進路指導を通して、学習指導、補習指導等の充実を図る。	8	施策Ⅱ-8 ・外部評価（アンケート、学校運営協議会等）
特別活動	「地域課題探究」を通して、地域の魅力を知り、地域課題を発見し、生徒たちが主体的に解決策を模索できるように支援する。	4	施策Ⅰ-4 ・地域の魅力を理解し、地域課題の解決策を提案する生徒たちの主体的な取組みを評価
	生徒を地域の各種行事へ積極的に参加させ、地域活性化に貢献するとともに、地域教育力を取り入れ生徒に自走性を高める。	7	施策Ⅰ-7 ・企画実施後の生徒アンケート、外部評価（アンケート、学校運営協議会等）
	健康で安全な生活について意識し、美化活動やリサイクル活動、防災活動を積極的に行う。	19	施策Ⅲ-19

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
授業を大切に生徒一人一人が活躍できる場を創出できた。また地域との連携や協働の機会は昨年度より増し、美濃市の未来創造課では美濃市の方々に様々なことを教えていただきながら生徒たちが市職員として活躍した。こうした学習の機会を中心にホームページを更新し89の記事を掲載できた。年度途中からではあるが、ホームページのアクセス数は113206回となった。	A	▲ホームページはスマートフォンで閲覧することが多いことに対応したリニューアルする必要がある。 ○生徒の活躍について積極的な情報提供ができていいる。わかりやすい広報に努め、地域唯一の高校としての存在感をいっそうアピールしたい。 ○県外の視察等、教育課程編成に向けた情報収集ができた。特に「総合的な探究の時間」の持ち方等について来年度の計画に生かしたい。	B
全生徒が全履修科目を授業アンケートで評価した。生徒自己評価と授業評価の2つの面から課題を洗い出し、後期以降の授業改善に役立てた。ICT活用については、授業内での利用が定着してきた。『学びとビジネス架け橋プロジェクト』『課題研究』『地域探究活動』『企業見学』など多くの機会がキャリア教育の機会となった。	A	▲家庭学習の時間の二極化が進んでいる。授業改善とともに学習支援の在り方を再考する必要がある。 ▲ICTにおいては、活用ありきではなく学習効果を踏まえた活用がなされている。生徒の破損事故が多く、利用指導を工夫する必要がある。 ▲美濃市、関市といった地域に限定することなく社会の課題についてさらに深い学びができるよう基盤を整える必要がある。	
生徒情報の共有や支援や働きかけについて模索するなど、定例の会議はよく機能した。担任、学年主任、及び関係職員で速やかに報告連絡相談をしきめ細やかに対応できている。定期的の実施した生徒へのアンケートも定着し、現実を反映した、より正確な情報を得られている。月曜を補習の日とし、学年ごとに補習を計画し実施。長期休業中自主学習会を実施した。河合塾やベネッセの協力で保護者や生徒向けに講演を行い努力の継続を喚起した。	B	○生徒情報交換会ほどの学年も機能しており、継続していきたい。保護者と職員における意思の疎通について一層慎重な対処が必要である。 ▲指定校推薦を意識する生徒保護者が増えている。進路決定に関しては、低学年より取り組むよう見通しをもった指導をするための職員の研修が課題である。	
「課題研究」「総合的な探究の時間」「プロジェクト」など授業、平日の放課後、土日祝日にまで広げて積極的に活動することができた。課題研究発表会や探究活動の中間発表などを行い、自己評価・相互評価した。また連携団体や企業様からも客観的な評価をいただき結果、生徒も担当する教員も主体的に取組み経験を積み重ね、より学びが深まっていく実感を持つことができていいる。健康診断後の受診勧告や健康指導、相談などきめ細やかに実施した。美化活動・防災活動は組織的かつ積極的に行うことができた。	B	▲地域と連携したいが関わる団体や個人の情報が乏しい。 ▲普通科の活動が調べ学習等の割合が多くなっているため、商業科の実施方法や実績から学び学校全体として地域課題探究を進化させる。 ○安全性の確保に留意し、より積極的、自主的な課外活動が行えるようにしていく。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月3日

<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育力を生かした教育をより一層推進する。本校の教育に関わっていただける団体や個人の情報を蓄積ししまとめながら連携を強め、生徒の主体性を涵養する。 ・学校の活動や活動の成果について、生徒・保護者・地域に発信していく具体的な方策を工夫し実践し、生徒の自己肯定感を高める。年度の途中に検証して改善に努める。 ・生徒の学力の向上、進路実現や自走性の強化を一層はかるために、職員が具体的な研修目標を持ち、協働しながら実践していく。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月6日

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学方面について高校生は視野が狭くなりがちであるので、さらに視野を広げて受験や自分の成長のために奮起するよう策を講じるべきである。高いモチベーションを持てる方策を期待している。 ・敏感ですばらしい感性を伸ばさせる取組みは評価できる。生徒が大人の視点と幼い子どもに近い視点と両方を持ち合わせて地域探究活動に関わり行動を起こすと現代の問題を解決していく新たな力となる。 ・入学志願者が定員を割り込むことがないように、特色ある学校を目指してほしい。 ・生徒たちの中から地域のリーダーとなっていく人材を見出し育成するためにも、愛着が湧くような学校や地域づくりが大切である。
--